

平成 27 年 2 月 26 日



**【照会先】**

国立障害者リハビリテーションセンター  
研究所 福祉機器開発部  
研究員 西浦 裕子 (7349)  
(代表電話) 04-2995-3100

報道関係者各位

国立障害者リハビリテーションセンター

## 高齢社会を支えるコミュニケーションロボットシンポジウムの開催

### －第 9 回 認知症のある人の福祉機器シンポジウムの開催－

国立障害者リハビリテーションセンター研究所では、近年注目されているロボット技術による高齢者支援をテーマとした、「高齢社会を支えるコミュニケーションロボットシンポジウム」を開催します。

今回のシンポジウムは、我が国において介護予防、生活支援、リハビリテーションの領域で利用され始めているコミュニケーションロボットに着目し、当事者、支援者、研究者、開発者など多様な職種が、その課題と可能性について議論を行います。

当研究所で行っている研究プロジェクト「戦略的イノベーション創出推進プログラム」の成果報告を兼ねています。

また、成果報告に加え、各企業によるコミュニケーションロボット展示を同時に開催する、日本では非常に新しい取り組みです。

#### 高齢社会を支えるコミュニケーションロボットシンポジウム

#### －第 9 回 認知症のある人の福祉機器シンポジウム－

- 1 日 時:平成 27 年 3 月 1 日(日) 10:00～18:30
- 2 場 所:東京大学 浅野キャンパス 武田先端知ビル(武田ホール)
- 3 主 催:国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- 4 共 催:三菱総合研究所
- 5 後 援:経済産業省、テクノエイド協会  
(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
- 6 協 賛:(独)科学技術振興機構(JST)  
日本バーチャルリアリティ学会 超高齢社会の VR 活用研究委員会

## プログラム

### 第一部 <<基調講演>>

10:05-11:25 『高齢者施設におけるコミュニケーションロボットの可能性』

浦田 慶信 (株式会社生活科学運営 代表取締役社長)

### <<講演>>

『認知症施策推進総合戦略とロボット技術への期待』

水谷 忠由 (厚生労働省 老健局)

高齢者支援課認知症・虐待防止対策推進室長)

### 第二部 <<コミュニケーションロボット研究会 成果報告>>

11:25-12:40 『コミュニケーションロボット研究会の取り組みと今後の展望』

橋本 政彦 (三菱総合研究所 人間・生活研究本部 主任研究員)

### ★各企業 コミュニケーションロボットの紹介

・Aldebaran Robotics 株式会社・ソフトバンクロボティクス株式会社

・大和ハウス工業株式会社・富士ソフト株式会社

・日本電気株式会社・ピップ株式会社

12:40-14:10 <<ロボット展示>> 各種コミュニケーションロボットを展示

### 第三部 <<JST 戦略的イノベーション創出推進プログラム 成果報告>>

14:10~15:40 『高齢社会を豊かにする科学・技術・システムの創成』

伊福部 達 (東京大学 名誉教授, 高齢社会総合研究機構 特任研究員)

### ★「高齢者の記憶と認知機能低下に対する生活支援

#### ロボットシステムの開発」成果報告

・国立障害者リハビリテーションセンター研究所・日本電気株式会社

・東京大学・産業技術総合研究所

・フランスベッド株式会社・株式会社生活科学運営

### 第四部 <<パネルディスカッション>>

15:55~17:25 『現場で役立つコミュニケーションロボットの課題と可能性』

司会：井上剛伸 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所

福祉機器開発部長)

パネリスト：井上薫 (公立大学法人首都大学東京大学院 人間健康科学研究科  
作業療法学域 准教授)

清水陽介 (株式会社生活科学運営)

富田美穂子 (株式会社生活科学運営 ご入居者)

大中慎一 (日本電気株式会社)

本田英二 (富士ソフト株式会社), 支援者

17:30~18:30 交流会

(その他)

### 戦略的イノベーション創出推進プログラムについて

戦略的イノベーション創出推進プログラムは、(独)科学技術振興機構(JST)の基礎研究事業等の成果を基に産業創出の礎となる「研究開発テーマ」を設定し、産学連携の複数の研究開発チームによる長期一貫した研究開発を支援するものです。

国立障害者リハビリテーションセンター研究所、福祉機器開発部長の井上は、研究課題名「高齢者の記憶と認知機能低下に対する生活支援ロボットシステムの開発」の研究リーダーであり、高齢者の生活を支援するコミュニケーションロボットシステムの開発を行っています。

シンポジウム第三部では、本研究プロジェクトの成果報告を行います。